



 所長コメント

今年大ブレイクした鈴木誠也は平成24年ドラフトの2位指名の選手、この年は前監督の野村氏がくじを引き、1位指名にはずれ、次の指名でも外れ、その後獲った外れドラフト1位に高卒の高橋大樹捕手は獲ったが今だ鳴かず飛ばず、2位で獲ったのが同じく高卒の鈴木誠也である。高校生特に野手の場合、プロで通用するかどうかはなかなか見極めが難しい。

企業は人なり、入社した社員が将来会社を支えてくれる屋台骨になる人材か、給料泥棒になる人罪かは本人の自

覚と能力、それにも増して環境、良き指導者、良き同僚に恵まれることが重要だ。

今のカープの軸は25〜28歳、カープの黄金時代は2〜3年は続きそうである。

今夜は美味しいお酒が飲めるといいが。

(本当は25年ぶりの優勝が決まってから、この原稿を書きたかったのですが、締め切りの関係で今日が優勝決定かという9月8日の朝、原稿を書いています。)

社長の仕事 税理士 大場史郎

If today were the last day of my life, would I want to do what I am about to do today?

もし今日が人生最後の日だとしたら、今やろうとしていることは本当に自分がやりたいことだろうか？

これは、アップルの創業者であるスティーブ・ジョブズの言葉です。

「プライベート・バンカー」という本を読んでいた時に文中に出てきた言葉です。この本はタックスヘイブンを求める日本の富裕層をシンガポールへ移住させ、資産運用を任せられるバンカーを主人公に描いた物語です。ここで描かれる富裕層はなかなか言葉もままならないシンガポールの生活に退屈して、決して満足な日常を送ることができないように描かれていました。

その彼が、転職の時につぶやいたセリフです。

スティーブ・ジョブズの父は中東の多くの難民を生み出しているシリアからアメリカに渡った移民です。

幼少時代は養子に出されたり、苦勞したが、大学を中退して起業し、紆余曲折があつて、今のアップルを創業した。当時のマッキントッシュというモニターが一体にな

った真四角のユニークな形をしたコンピュータ、今では当たり前になったマウスが付いていて、その使いよさに当時私は驚嘆しました。税理士として駆け出しの頃、40万円と高かったマックを清水の舞台から飛び降りる覚悟で買ったのを覚えています。

創業したアップルを強引な経営を理由に1985年に解任されるが、1996年にアップルが経営不振に陥り、再度返り咲き再建を任せられることになる。それからiMac、iPod、iPhoneなど矢継ぎ早にヒット商品を出していった。

2003年膵臓がんを診断され、がん治療を行いながらCEOを続けたが、ついに2011年に他界した。

上記の言葉は、2005年スタンフォード大学の卒業式に招かれて、記念講演を行った時の一節です。

